

カミノトピックス



懐かしく、新しく…

当社は、千歳科学技術大学さんの本部棟と研究実験棟に2カ所売店を出しております。学生に喜ばれるお店作りを目指して日々頑張っています。

今回ご紹介するのは、今年5月から売店で新たに販売を始めた手作りパンの『メルヘン』さんです。本社が釧路にあり千歳店は、北陽1丁目にお店を出して12年になります。従業員の方は4名で、売店にパンを配送してくれる伊藤さんは、学生のために毎回いろいろな種類のパンと日程に合わせて数量まで考えてくれます。写真①のようにいつも見やすく取りやすい陳列もしてくれます。

メルヘンさんの1番の人気は、『半熟カレーパン』(写真②)と『コロネ(カスタードクリーム)』(写真③)です。2種類ともそれぞれテレビ番組で紹介をされました。半熟カレーパンは、半熟卵が丸々1個入っていて絶妙な味わいで、あの料理好きでグルメな俳優の梅宮辰夫さんも絶賛したそうです。コロネも北海道の番組で紹介されてから、より注文が殺到してパンを作る成形器を30個以上追加して対応したそうです。最近では、新商品『チーズちくわパン』も好評です。

売店も半熟カレーパンが1番人気で、並べるとすぐに売れてしまいます。

そんな中、本社のある釧路出身の学生から『ここのパン地元にあって大好きでした。すごくなつかしい感じがします。これからもいろいろな種類のパンを販売して下さい。』とうれしい言葉をもらいました。

新しい出会いが学生から力を頂いた感じがします。 談：FIT・斉藤



写真①—朝はびっしり並べられた商品もあっという間になくなります。



←写真②
半熟カレーパン



写真③ →
コロネ(カスタード
クリーム)



<http://www.bread-dream.com>
に詳しくパンの種類が載っています。
メロンパンも人気です。
アクセスして見てください。
腹の虫がグウ〜となります。

伊藤さん、
いつも親切に
対応していただ
いています。



共に生きる社会作りを…

今回紹介するのは、『千歳いずみ学園 就労推進室 やませみ』様です。

国の緊急対策であるふるさと雇用再生特別対策事業を活用し、「障がい者就労支援推進事業」が千歳市の委託を受け、平成21年6月より3カ年で実施されるにあたり、千歳市清流町のいずみワークセンター内に事務所が開設されました。

事業内容は、障がいを持ってしまった方が企業などで働く場に付き、自立した地域生活をおくるための支援を、ハローワークや障がい者自立支援協議会などと連携し、推進活動をしていきます。スタッフは吉田さん・山本さんの2名で、これから各企業などを訪問して行くとのことです。

「昨今の経済状況では、障がいを持ってしまった方を雇用するのは厳しい状態でもあります。障がいを持ってしまった方の「生きがい」「働きたい気持ち」と、障がいの特性などいろいろありますが十分に収益事業の担い手として活躍できることを、企業の方々に理解してもらえよう活動をしていきます。また、就労希望者にも「企業で働く」と言うことを理解できるようにもしなければいけません。二人とも福祉的な仕事は始めてで、新しく取り組まれる事業でもありますので、これからいろいろな事を自らも勉強や検証をしながら、市内事業所や自立支援協議会などとコミュニケーションを図り、就労希望者の自立のお手伝いをしていきます。みなさんの会社へ、訪問することもあるかと思いますが、その際はよろしくお願ひします。」と、意気込みをお話してしてくれました。

お話を伺って、これからの時代は障がいの有無に係わらず、共に得意分野で自立することができ、企業も繁栄できる社会作りが必要であると感じました。

談：E.S・後藤



吉田さん(左)と山本さん(右)です。初めての職種とのことですが、着々と進めているとの事です。詳しい事業内容などは、
Tel (0123) 25-3990
にお問合せください。



今回、北広島市西の里にある「北広島市高齢者総合ケアセンター聖芳園」様の三浦施設長にお話をお伺いしました。普段、何気なく呼んでいる名称ですが7つある事業サービスの詳細を聞いてみました。



聖芳園の正面(写真上)
広い食堂です(写真下)



1. 「北広島市きた高齢者支援センター」

お客様の福祉、保健、医療などに関するご相談に対応するサービスを行う。

2. 「聖芳園指定居宅介護支援ステーション」

介護保険のサービスを利用する際に必要な「要介護認定」の代行申請やケアプラン（サービス計画）の作成を行う。

3. 「聖芳園ホームヘルパーステーション」

介護や家事にお困りの方のご家庭にホームヘルパーを派遣し、食事、入浴、排せつ、介助などの介護、調理、洗濯掃除などの家事をお手伝いするサービスを行う。

4. 「聖芳園訪問看護ステーション」

傷病などのため、自宅で療養なさっている方のお宅に主治医の指示を受け看護師などが訪問し病気の状態観察と処置など、快適な在宅療養のためのお手伝いをする。

5. 「聖芳園デイサービスセンター」

家庭から施設まで車椅子のままでも乗車できるリフト付のバスなどでお客様を送迎し、個々のお客様のご希望やお体の状態などに応じて、健康チェック、機能訓練、入浴、昼食、レクリエーションなどのサービスを行う。

6. 「特別養護老人ホーム聖芳園」

心身の障害があり、介護を受ける必要があるが、ご家庭ではそのお世話を受けられない方に入居していただき生活全般に必要な介護サービスを利用していただく施設。



7. 「短期利用施設聖芳園」

家庭で介護なさっている方が、ある一定期間、介護ができない場合、その間介護を受けておられる高齢者の方などに入所していただき生活全般に必要なお世話をさせていただくサービスを行う。

上記7つのサービスから北広島市を中心とした地域の皆様に「相談から各種サービスの提供など、トータル的な役割ができるサービス」を目指しているそうです。

悩みとしては、この業界は3年ごとの制度、報酬改定があり、中長期的な予測がつかないこと、制度が複雑化してきていること、人材確保だそうです。

その他、利用者の家族とのコミュニケーションについては、「連絡ノート」で行い、意見交換しているそうです。

地域貢献活動も活発に行い、保育園、養護学校など地域密着の交流を行い、今年の4～5月リングプル4、00kg、ペットボトルキャップ3、19kgを社協に寄付されたそうです。

取材を通して園の基本理念《大切にします、あなたの思い ささえます、一人ひとりの暮らし》がきめ細かく行われていると感じました。 談：R&R・坪井

7月11日（土）、今年も(財)千歳市環境保全公社主催の『リサイクルフェスティバル』にボランティア参加してまいりました。7月に入ってからの曇りや雨が多く、当日の開催を心配しましたが天気もますますとなり無事開催となりました。今年は自転車抽選会の台数が例年40台のところ70台と数量も多く出ており、沢山の市民の方が自転車の品定めをして抽選会場で自分の番号を呼ばれるのをわくわくドキドキしながら待っている光景が印象的でした。わが社は毎年均一コーナーを手伝わせていただき、こちらも大好評でお昼までには商品がなくなってしまうくらいでした。(ちなみに均一コーナーでお祭りはっぴを着て販売していたのが当社の社員たちです！)

私たちがリサイクルフェスティバルに参加するようになったのは、ISO14001の「地域貢献」が目的ではじめましたが、今では毎年恒例の行事として定着し、社員が楽しみにしている行事でもあります。そして今回その活動を環境保全公社様に表彰していただきました。

フェスティバルに参加して常々思うのは、自分ではもう必要が無いと思うものでもどこかに必要だと思う人がいるということ。そういう循環のしくみと、次に生かせる資源として商品を扱う気持ちがあればゴミは減らせるのではないかとことです。

私が幼いころは3R（リデュース・リユース・リサイクル）の言葉も精神も無い社会でしたが、今では当たり前の事。

人にも環境にも地球にもやさしく
エコ活動を出来るよう今後も活動
したいと思います。

談：E.S・兼澤

